



ウィリアムズバーグ・イン「Williamsburg Inn」はアメリカ建国の地、コロニアル・ウィリアムズバーグに建つ伝説的ホテルである。アメリカで2巡目に主催されたG7サミット開催地であり、エリザベス女王や訪米された昭和天皇、そして中曽根首相を始め各国首脳が多くが訪問した歴史的ホテルだ



気品あるクラシカルなロビーラウンジ。ウィリアムズバーグ・インは英国リージェンシーテイストの家具・調度品が置かれ、ゲストルームは二つとして同じ部屋はない



夕暮れ迫る時間帯、正門ゲートから望むウィリアムズバーグ・インの麗しき正面ファサード



ゲストはコロニアル調の制服を着たドアマンに迎えられる



笑顔のスタッフが詰めるコンシェルジュデスク



シャンデリアが煌めく夕暮れ時のロビーラウンジ

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

### Williamsburg Inn

ウィリアムズバーグ・イン「Williamsburg Inn」はアメリカ建国の地、コロニアル・ウィリアムズバーグに建つ伝説的ホテルである。1937年の開業以来世界各国の首脳、ロイヤルファミリー、そして、トルーマン、アイゼンハワー、レーガンなど歴代の米国大統領もここに滞在しゲストブックに名を残している。また、アメリカで2巡



筆者 **小原 康裕**  
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。  
1974年 Munich Re 入社。  
2001年投資顧問会社原健設立、  
代表取締役 CEO。  
JHRC、日本ホテルレストランコンサルタント  
協会理事。

[www.jhrca.com/worldhotel/?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel/?cat42)  
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

現在、筆者のホームページで  
「世界のリーディングホテル」を連載中。  
多くの美しい写真と興味深いコメントで、  
世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



重厚なレセプションルーム。シャンパンのサービスを受けてチェックインする



優雅な時間が流れるガーデンテラス



ガーデン側は全米屈指のゴルフクラブ「The Golden Horseshoe Golf Club」の美しいグリーンが広がる





メインダイニング「Rockefeller Room」はコンテンポラリー感覚の中にも英国リージェンシースタイルの空間が美しい



朝食はガーデン側にあるモダンな「Terrace Room」で用意される



「Terrace Room」に付属するバーカウンター



スパ施設「The Spa of Colonial Williamsburg」のレセプション。ゴージャスなトリートメントルームが並び、ヘアサロン、メンズグルーミングなどクオリティーは極めて高い



広大な森の庭園内に用意されたアウトドアプール



当時の衣装に身を包んだ夫人たちが町のメインストリートを歩く。コロニアル・ウィリアムズバーグはアメリカ合衆国の植民地時代の建物が修復・再建され、思わずタイムスリップした感覚が楽しめる



エリザベス女王が実際に宿泊したという「The Queen's Suite」のベッドルーム。正面ファサード2階の右ウィングを占めるエレガントなスイートだ



「The Queen's Suite」の気品あるリビングルーム



ターナダウンの際に用意された小粋なリキュールのナイトキャップ

目に主催されたG7サミット開催地であり、エリザベス女王や訪米された昭和天皇、そして中曽根首相を始め各国首脳が多くが訪問した歴史的ホテルだ。ウィリアムズバーグ・インはジョン・D・ロックフェラー・ジュニアが先頭に立ち、「バージニアで最もモダンで優雅な設備、比類なきホスピタリティのホテル」のビジョンの基に建設された。現在は「Historic Hotels of America」グループ傘下の旗艦ホテルである。

1607年5月13日、現在のウィリアムズバーグのすぐ隣町ジェームスタウンにイギリスの入植地が開かれ、アメリカ大陸に初めてヨーロッパからの人々が住み着いた。このときの入植者は僅か104人。当時はエリザベス1世の治世、この地を祖国イギリスの植民地として認知させ、バージニア州の基礎を固めていった。これは、マサチューセッツ州ボストン郊外にヨーロッパ各国から多くの清教徒たちが入植する、実に13年も前のことであった。

コロニアル調の制服を着たドアマンに迎えられ館内に入ると、気品あるロビーラウンジに魅了される。ゲストは重厚なレセプションルームでシャンパンのサービスを受ける。今回はエリザベス女王が実際に宿泊したという「The Queen's Suite」を紹介したい。正面ファサード2階の右ウィングを占めるエレガントなスイートだ。メインダイニング「Rockefeller Room」はコンテンポラリー感覚の中にも英国リージェンシースタイルの空間が美しい。朝食はガーデン側にあるモダンな「Terrace Room」で用意される。広大な森の庭園内に佇むスパ施設「The Spa of Colonial Williamsburg」は、ゴージャスなトリートメントルームが並び、ヘアサロン、メンズグルーミング、屋内プール、アウトドアプールなど、クオリティーは極めて高い。

ウィリアムズバーグ・インの館内は英国リージェンシーテイストの家具・調度品が置かれ、ゲストルームは二つとして同じ部屋はない。ガーデン側は全米屈指のゴルフクラブ「The Golden Horseshoe Golf Club」の美しいグリーンが広がる。コロニアル・ウィリアムズバーグはアメリカ合衆国の植民地時代の建物が修復・再建され、思わずタイムスリップした感覚が楽しめる。